

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000694		
法人名	社会福祉法人普代福祉会		
事業所名	グループホームとりい		
所在地	普代村第24地割字鳥居5地割1		
自己評価作成日	平成23年10月26日	評価結果市町村受理日	平成24年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0373000694&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 併設する関連施設等があり、連携・連絡体制が充実している。 * ゆったりとした生活空間と、豊かな自然環境に恵まれている。 * お誕生食の実施。(誕生者より好きな食べ物を聞き取りし、希望食として提供している。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>高台にある広々とした敷地は、はるかに海を見渡し、元日には素晴らしい朝日を目の前に、思わず手をあわせているという自然環境の良さの中の「グループホームとりい」は、認知症介護の地域の拠点になっている。</p> <p>職員の細やかな気配りの中で、季節感のある行事等も、併設する関連施設とともに実施することで、日々の楽しみの機会も多くなっている。事業所内も広々と落ち着いた雰囲気と、シンプルに暮らしやすい工夫が随所に見られる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念に基づいたサービス提供がなされているか、理念見直しの為の内部研修を実施し、管理者・職員ともに検証を行っている。	毎年、職員で検証を行っている。 「おいしい食事 楽しく一緒に！」 「あなたの想いを大切に！」 「地域とのつながりをいつまでも」と、わかりやすい内容で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事等への参加や、併施設設等の利用者・職員との関わりが持てるよう努めている。	地域にある神社の祭典等には積極的に参加をしている。併施設設にボランティアの慰問のある時には、一緒に参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現段階では実施できていないが、今後は地域住民を対象とした「認知症」についての研修会等を企画・実施し、事業所として培ったノウハウを地域に還元できる機会を設けるなどの必要性を感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事参加型の運営推進会議を開催することで、即意見を聞くことができ、次回行事等への参考とさせていただいている。また、今年度は震災時の対応についてご家族との意見交換を行っており、体制づくり等への参考とさせていただいている。	予定通りの開催が難しく、事業所の行事・予定に合わせ実施している。内容も事業所からの情報提供が多く、今年度は主に震災に対応の意見、課題が出されている。法人全体の課題として捉えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには利用状況や待機者状況を報告しており、また、要介護認定調査等の際には利用者の状態についての情報交換等もしている。	法人内に包括支援センターがあり、市町村担当者との情報交換、連携は緊密に取られている。広報も関係機関に直接手渡しで配布する等、協力関係を大事にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」を活用した内部研修を実施することで、完全ではないが、ある程度の理解はできているものと思われる。なお、現時点においては身体拘束が必要となるケースはない。	今、身体拘束を必要とする利用者はいない。マニュアルも作成されており、今後も職員は内部研修等に取り組み、拘束を行わないケアの実践に取り組んでいこうとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一昨年度に高齢者虐待に関する内部研修を行ってからは研修は行っていないので、研修を計画・実施する必要性を感じている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年度に高齢者虐待に関する内部研修を行ってからは研修は行っていませんので、研修を計画・実施する必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、重要事項説明書や利用料金表で詳細にわたる説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等開催時に家族へのアンケート調査を実施し、また、面会時等に都度意見を取り入れるよう話しやすい環境づくりに努めている。	家族との連絡・連携の中で、利用者の日常生活を見てもらう機会(行事、面会、会議、通院時の付添い同行等)を大事にし、そこで感じた意見や要望を出してもらい、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催されるグループホームの会議及び法人内の代表者会議において意見聴取を行っているほか、日常の巡回の中での状況確認及び意見聴取を行っている。	職員の気づき、アイデアを代表者会議に提案し、優先順位を付けながら改善を図っている。代表者は、出来るだけ(行事等が無い時も1日1回以上)事業所に顔を出し、利用者や職員と会話を心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の改善はなかなか進んではいませんが、臨時職員から正職員への登用、必要最小限の時間外労働及びそれに伴う時間外手当の完全支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員のなかではあるが、定期的な内部研修(事例検討等)を行うとともに、各種研修会への参加及び各資格取得試験受験に対する助成等を行い、職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員より研修テーマに応じ希望者を募り、県北ブロックGH協会開催の定例会(研修会)へ参加している。また、他事業所との職員交換研修を実施し、意見・情報交換を行うことで自事業所のサービスを見直す機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接の段階では形式的な聞き取りはあえて行わず、その後のサービス利用の中の何気ない会話等から、不安や要望等を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時等においては、現に抱えている課題や問題点にのみ焦点を当てることなく、今後どのように生活を送らせたいかなども確認し、一緒に考えていく姿勢で対応するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の意向(アセスメント)をすり合わせることで、今必要な支援を提供するよう努めている。また、事業所として「できること」「できないこと」を明確に伝え理解していただくとともに、必要に応じて関係機関と調整等の支援も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り炊事等に参加していただくなど、共に過ごす時間が持てるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠がちな家族に対しては電話連絡を頻回に行うなどして、面会を促している。また、面会時などは日頃の様子などを伝え、支援の方向性などについても家族と検討するなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等へ極力参加することで、知人や友人と交流できる場を持つことができるよう努めている。(※行きつけの美容室への対応等)	利用者は自分からの訴えが、ほとんど無いため、記憶の呼び戻し(回想)などを期待し、合同の敬老会やドライブ等で馴染みの人に会ったり、風景に接することが出来るよう行事等の工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係には極力留意し、関係性が良好でない場合には、職員が間に入り調整を図る等している。また、利用者が一緒に協力してできること(ゴミだし)を意図的にお願いするなどしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は利用契約終了となるケースはないが、利用者の身体状況等に応じ、居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等とサービス利用に関する検討は随時行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員がそれぞれアセスメント(意向確認)し、ケアカンファレンスにて情報共有の為に検討を行っている。	利用者の「言葉になりづらい思い」を大事にし、家族からも情報を聞き取り、職員は毎日の細やかな観察により、暮らしの希望を汲み取り、カンファレンスで情報を共有検討をし、「より良い暮らし」にしようと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との普段の何気ない会話の中からそれぞれ把握するよう努めている。また、確認が困難な場合には、家族の面会時等に適宜確認をとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員が一人ひとりの生活をそれぞれ観察し、アセスメントシートに記入。ケアカンファレンスにて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1月に1回モニタリング、ケアプランについてカンファレンスにて検討している。入院等に伴う、利用者の状態変化の際には、随時介護計画の見直しを行っている。	利用者主体の暮らしを大事にし、心身の状態の変化を、職員一人ひとりが常に気を配りながら、その変化に随時対応した介護計画を関係者と連携を取りながら、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援内容に関しては、支援経過として記録し、モニタリングや計画の見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	タイムリーなサービス提供は心掛けているが、多機能化したサービス提供までには至っていない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分とはいえない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関受診については、事業所でも対応している。その他、遠方のかかりつけ医への受診は原則家族対応をお願いしているが、都合により事業所でも対応しており、受診結果については、適宜家族へ報告している。	受診については家族と連携しながら行っているが(家族への同行等)、受診する利用者の日常の体調や、生活の状態の分かる事業所職員が対応することが多くなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化がみられる際には、随時併設の特養ホーム看護職員へ相談している。また、特養ホーム看護職員には、利用者の既往歴等の情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に医療機関との関係づくりは行えていないが、入院した際には情報交換は密に行うよう心掛けている。また、入院中の居室についても実費負担ではあるがそのままの状態でも迎え入れることができる体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年に重度化、ターミナルケアに関するアンケートを行っているが、アンケートをもとに事業所の方針等を今年度の運営推進会議で検討しようとしているが、実施に至っていない。	事業所としての体制として重症化や終末期に向けた方針を、当初平成23年度の運営推進会議で検討の予定であったが、東日本大震災等で実施できていない。今後、検討を続ける予定である。	この先、利用者の重度化等も考えられることから、利用者や家族の混乱を招かぬよう、事業所としての方針を早急に定め、利用者・家族の意向確認を進め、事業所としても納得のいく説明の上、支援の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の対応等に関するマニュアルは掲示しているが、定期的な訓練は実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体施設(法人全体)との総合訓練を年2回、事業所内での部分訓練を年2回実施している。また、定期的に防災設備の自主点検や備蓄品の在庫確認等を行っている。今回の東日本大震災後、更にパターンを変えた訓練や備蓄品の補充等検討している。	消防署普代分署をはじめ、地域の協力を得ながら、法人全体と事業所単独の避難訓練を実施している。災害に備えた備蓄も年2～3回の点検をし、非常食の日を決め、α化米を使用した食事体験もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不十分な点もあると思われるが、入浴時や排泄時は特に留意して対応している。今後、接遇等に関する内部研修の充実を図る必要性を感じている。	プライバシーを守るため、利用者一人ひとりについての尊厳と誇りを損ねないよう配慮している。職員は情報の共有を図り、入浴・排泄等、日常の暮らしの中でも実践できるよう心掛けている。	暮らしの中で基本となるもので、職員各々が十分な配慮のなかで対応している。事業所でも内部研修の必要性を感じ、予定されているとのこと。今後の実施を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課の中においても都度、本人が選択できるような声掛けをしたり、想いを伝えられるよう、ゆとりを持って会話できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けないよう、その時々で利用者の想いを聴き取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛け・助言により、本人のペースに合わせて行っている。外出や行事の際には、普段よりおしゃれに心掛けている。整髪は2カ月に1回のペースで馴染みの理美容院に来ていただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、季節感を感じさせるものや、利用者にとって昔食べていた懐かしい食材などを取り入れるようにしている。また、本人の嗜好調査を行い、お祝い(お誕生食)も行っている。	あまり食事への注文(要望)は出されないが、献立の中でおいしそうに食べるものや、季節感のあるもの、誕生日等行事食を中心に、楽しむ工夫がされている。食堂では、ゆったり職員と会話しながら食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お汁やお茶で水分摂取が困難な方については、ゼリーなどの代替で水分摂取量の確保に努めている。また、献立表を母体施設の栄養士に確認していただき、バランスの良い食事提供できるようアドバイスをいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年2回、協力医療機関である歯科診療所より訪問歯科指導を受けており、個別の口腔ケアを実施している。また、本人の残存能力を活用した口腔ケアを心掛けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分から訴えることが難しい方や失敗がみられる方に対しては、排泄チェック表を活用し、個々に応じた時間に声掛けするなどして、可能な限り失敗を少なくできるよう努めている。	本人の生活リズムに合わせ、時間や排泄チェック表を見ながらトイレ誘導がされている。おむつの使用でも、(おむつ使用回数等を)減らしていけるよう、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の内容が偏らないよう留意したり、おやつや時間の水分を多く摂ることができるよう声掛けを行っている。また、散歩などで運動できる機会を確保するよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分が向かない時には、時間をずらしたり、日にちを替えるなどして、入浴を苦痛と感じさせないよう支援している。	一人ひとりの様子を見ながら声がけをし希望に添うよう配慮されているが、時として拒む方には、時間をずらしたり、声がけの職員をかえたりして対応支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や談話室で自由に休息できる環境づくりに配慮している。(イスなど多目に設置するなど)また、夜間は一人ひとりに応じた照明で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者医療情報を職員が共有できるよう、一覧表として掲示している。服薬介助の際には、利用者の状態変化に気を配り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換を図ることも一つの目的として、毎日施設外周の散歩を行っている。母体施設へ来る巡回販売(売店)を利用し、買い物を楽しんだり、炊事等を自分の役割として行っていただくことで、少しでも生活に張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイクの際、希望に応じて自宅周辺や馴染みの場所をドライブコースに入れて対応している。嗜好品や衣類等の買い物にも希望があれば出かけたり、各種イベントや行事も参加できるよう支援している。	敷地内の併設施設を1周すると散歩コースとして最適となっている。買い物には普代の中心街に行ったり、ドライブがてら実家付近まで行ってみるなど、地域の人たちの協力と支援を受けながら、利用者の思いに対応し、外出支援がなされている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム とりい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	比較的高額な金銭管理は原則として職員が行っているが、バスハイクなどの外出の際には買い物できる機会を設け、自分で買い物をする楽しみを持てるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが、本人の希望時にスムーズにできるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、ホールにソファやイスを置き、利用者がいつでも利用できるように工夫している。また、散歩時に利用者が摘み取ってきた花を飾る等し、季節感を感じることができるよう配慮している。	玄関を入ると落ち着いた色調のゆったり、スッキリとしたスペースが広がっている。適度な壁面の飾りつけと、利用者が思い思いの場所で過ごせるようなソファ等の配置に職員の工夫が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関など、人が集まる場所(パブリックスペース)には、イスやソファを置くなどして、それぞれの居場所を確保できるようにしている。また、食事も一人で摂りたい方に関しては、学校用机を活用するなどし、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具などを持ち込んでいたり、家族の写真を飾ることで、利用者の居心地の良い空間となるよう配慮している。	居室は遠くに海と緑が見えて明るい。馴染みの家具の持ち込みもあり、家族の写真等も飾られており、居心地がよく過ごせるよう職員の支援の工夫も見られる。家族の訪問も居室で対応がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に日捲りカレンダーを掲示し、それぞれ日にちの確認・把握ができるよう努めている。また、日々の活動として、玄関掃除やテーブル拭き等、日課として行えるよう支援している。		